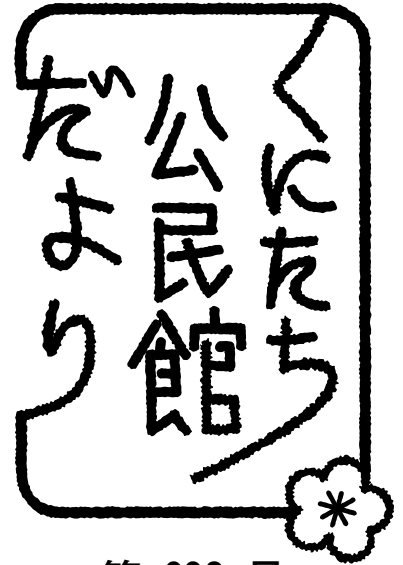


# 講座参加者の声

公民館では年間を通してさまざまな主催講座が行われています。9月までに開催した講座の中から4つの講座に参加された方々に感想を寄せていただきました。それぞれの講座の雰囲気を感じていただければと思います。



第 693 号

2017年11月5日  
(平成29年)

## 憲法講座に

### 参加して

野村 瑠衣

(市立第一中学校1年)

この講座に、私は母と参加しました。中学1年生の私はまだあまり憲法を身近に感じませんが、国民の一人としても、将来選挙権をもつ中学生としても、憲法を学ぶことは、やはりとても大切なことだと思えます。少子化問題等、将来の日本が心配な方もいるかもしれませんが、それを変えるきっかけになるのが選挙ではないでしょうか。何も知らないまま、ただ票を入れる前に、少し頑張って憲法に興味をもってみるのもいいかもしれません。この講座を受け、改



映画を見ながら……

めてこのことを考えました。今回の憲法講座は「映画から学ぶ憲法」でした。映画から学ぶのは、とてもわかりやすかったです。取り上げた映画は『グロリー／明日への行進』や『ガンジー』など、アメリカや南アフリカを舞台とした黒人たちに対するテロや「表現の自由」の権利などを主張する黒人たちの努力を描いた作品

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

です。これらの映画を見て、本当に黒人差別はこれほどにも酷いものだったのかと驚きました。今年話題になった組織的犯罪処罰法。この法律について全てわかったわけではありませんが、最初はテロを防ぐ良い法律なのかなと私は思いました。けれども講座を受け、様々な問題があることがわかりました。この法律は必要だとは思いますが、そこにある問題——懸念をすべて解決するのは難しいとも思います。そこが憲法や法律の難しいところだと感じました。講師の志田陽子さんの意見は、「仮にこれらの懸念を『杞憂』と言うのであれば、このような懸念が起きないような人権状況改善（とくに政治的意見表明の権利や『裁判を受ける権利』の保障の改善）を行うことが先決だろう」というものでした。なるほど、そのような意見もあるのかと気がきました。このように話し合うと、他人の意見によって自分の意見が変わることがあります。小学校や中学校でも、話し合いや他人の意見を聞くことは大切なと教わりました。憲法はそのようなことででき

たものだと思えます。国民全員が賛成する憲法というのは無理かもしれませんが、その憲法を基に国を良い方向に進めることは実現できると思っています。憲法の内容は、子どもには少し難しいです。けれど、憲法のことを皆でわかり合い、国民全員が政治に参加し、国がまとまる……それが私の理想です。私の宝物は12本のカセットテープです。NHK学園の通信教育でラジオ講座を受講した時の録音で手放す事なく今も持っています。そこには、夢や希望を見つけてよと過ごした時間が詰まっています。今は就職したい人の相談を受ける仕事をしています。仕事で出会った人のなかには、もう少し早く出会っていたなら、ひきこもり

## 講座「子どもの貧困の現在」に参加して

城野 ふく子



講師の本





是非できあがりを見に「喫茶わいがや」へお越しください!

る小鉢や皿を作ります。出来上がった作品は、手塩にかけた分愛着があり、毎日使用しても飽きません。毎朝のコーヒーは、入る量も、持ち手の具合も厚さも、自分好みに作った器で頂きます。お気に入りの器だと、味も良いような気がします。「喫茶わいがや」で使った下さるお客様がこのカップで寛いで頂けると嬉しいですよ。



こだわって作っています

院生講座  
「人間の性質」の  
改良の思想  
— 優生学を考える —  
に参加して  
あけみね 淳子  
明華

公民館と一橋大学大学院言語社会研究科が連携して、大学院生の研究成果を市民に提示し、お互いの学びを高め合う講座があることを知り、今年の7月16日、30日の2回、「優生学」をテーマとしたこの講座に参加しました。

これまでの、優生学ということばにまともな負のイメージを感じ、何となく遠ざけていました。しかし、ちょうど一年前に起きた相模原市の施設で19人が殺害された事件以来、「しょうがいしゃは殺していい」と主張する加害者のことが頭から離れません。他者を抹殺することを正当化する考えは、まさに優生思想。多様性こそを大切に、共に生きようと考えてきたはずの現代の思潮に、正々堂々と挑む人が生まれていること(しかも、ネット上では賛同者が少なくないとか……)に、私

アルメニアから留学して8年というホワニシヤン・アストギクさんは、流暢な日本語で、優生学とは何か、日本の優生保護法の背景にあった状況、考え、目的などの研究成果を丁寧に伝えてくださいました。優生思想がナチスのような極端な排外主義者によって用いられただけではなく、むしろリアルな人々、今では福祉国家の代表のような国々でも、公共の益の名の下に不妊手術の強制や断種法が合法とされた歴史があったことが知らされました。



講師のホワニシヤン・アストギクさん

はハンマーで頭をなぐられたような衝撃を受けました。どこにこの事件と向き合う糸口が見つかるのか、やり場のない思いとともにこの講座に参加したのです。



講師と共に考えます

まれば、彼は死刑になって当然という「世論(制度)」が、受け入れられるということになるのでしょうか。でもそれは、私たち自身が「殺されていい人、殺されてもいい人」はいるのだということを確認することです。それは結局、人間の中に潜む優生思想を支持することにつながってしまうのではないのでしょうか。しょうがいがあっても、年をとっても、罪を犯しても、誰かに「殺されていい」人はいないはずですよ。今回の講座に「助け」を求めた私にとっては、加害者が投げつけてきた問題の大きさに改めて向き合われ、逃れられないテーマであることをはっきり知らされ、受講前より大きな宿題が課せられた形になりました。

今回4人の方に「講座参加者の声」を寄せていただいた講座はいずれも終了しましたが、公民館では、他にもさまざまな講座を年間通して実施しています。毎月5日に発行されるこの「くにたち公民館だより」に講座のお知らせが載ります。

日頃忙しい方や公民館に行ったことのない方も、お時間のあるときに、興味のある講座に一度参加してみたいかがでしょうか。

が長引かずに応援できたのと思う若い世代も多くいました。そこでもう一度学び直しの機会があればと思います、東京都の「ひきこもり等の若者支援プログラム」に参加し、昨年の秋には公民館の「喫茶わいがや」を訪ねました。

こうしたふたつのつながりから、公民館とNHK学園高等学校が共催する「つながりワークショップ」に参加し、そこで紹介された「子どもの貧困の現在」を受講しました。「つながりワークショップ」は、地域で子どもたちの支援をしている市民団体の活動発表や意見交換の場で、子どもたちを受け入れてくれる場所があることや子どもたちを見守る多くの大人の目があることを知りました。実際に、今年の5月に谷保で開催された「第2回こどもおぞら市」をのぞきに行くと、子どもたちの笑顔と活気にあふれていました。そこには、子どもたちには厳しい現実もあるけれど笑顔になる場所を作りたくて活動する人達の想いが込められていました。



白熱するディスカッション!

今回受講した「子どもの貧困の現在」には、子どもたちのために活動したり、テーマに興味を持っている市民が約40名参加しました。しかし、講師がお話された貧困問題と普段見かける子どもたちの姿が重ならないとの感想も見受けられました。講座中、参加された方と話し合う時間で「困窮家庭では、高校に進学できませんか?」と聞かれました。私は日々仕事をしながら、子どもたちに高校だけは卒業して欲しいと願っていたので「もちろんできます」と答えましたが、それを聞かれたこと自体がショックでした。子どもたちの貧困が見えづらいことを実感した瞬間でした。

土に触る楽しさ  
魅「されて」……  
門屋 亮子



私たちにできることは……

行政にも市民にも子どもの実態をもっと知ってもらいたいと思います。公民館が、多様な子どもたちの実態に触れたり、実際に活動している人達と出会えたりする機会をもっとつくって欲しいと思います。そしてそれが、活動に多くの人達が関わるきっかけになればと思います。子どもたちが安心して生きられるようにと想う気持ちがあれば、いま子どもたちを支えている人達とも、つながれると思っています。

でも通いたいこの陶芸講座の魅力は、日常とは違う時が流れ、落ち着く空間の心地良さかもしれませぬ。7年前、初めて陶土に触れた瞬間、遠い日に、祖母を真似て指をさし入れた田植えの頃の水田の土の感触—それは、思いのほか重く、冷たかったことが、突然思い出されました。土に触ると、心が穏やかになっていく気がするのには、幼い頃に組み込まれた細胞レベルでの安心感、懐かしさのせいでしょうか。



思い思いの形にしていきます

講座では、公民館にある「喫茶わいがや」で使用するコーヒークップを規定のサイズで作る、その後は自由作品に移ります。陶土は赤と白の2種。焼き上がりで縮む割合も土によって違い、かける釉薬も意図した通りにはならない面白さが、「次回こそは……」のモチベーションにつながります。講座は5月、10月の全8回、長年滝乃川学園で行っていた作陶を昨年からは郷土文化館をお借りして続けられることに感謝しています。天候や湿度、湿度や体調によって変わってくる土をひねりながら、

また、どうやら自分の好みの形というのがあるようです。どんなに形を変えて作ったつもりでも、どこか似てしまうのは、自分の好きな形を無意識に求めるからでしょうか。普段気にしなかった自分の癖や好みを客観視できるのも一興です。お酒を飲む方は、好みの酒器を料理を載せたい私は、それが映え



### ジャック・デリダと「遺産相続の哲学」

講師 嶺村 慧 (一橋大学大学院生)

フランスを代表する哲学者ジャック・デリダ。没後10年を過ぎ、デリダの思想を継承することの重要性は日増しに高まっています。彼の遺した莫大な「遺産」からの呼びかけがますます強まっているのです。これは単なる比喩ではありません。誰かの「遺産」を「相続する」とはどういうことか——そんな哲学があったとしたら？

知らないうちに、重い責任を伴う莫大な遺産の相続人にされていたら、どう振る舞ったらいいのでしょうか。うれしい？ こわい？ 心はどうなる？

本講座では、デリダの思想を「遺産相続の哲学」と捉え直して語ります。前編は初期の著作を参照しながら地ならしをした上で、後編では、デリダが遺した哲学について、講師が一人の「相続人」としてお話しします。

とき 11月26日、12月10日 (全2回) いずれも日曜日、昼2時～4時  
ところ 公民館 地下ホール (第1回)、3階講座室 (第2回)

定員 30名 (申込先着順)  
申込先 11月8日 (水) 朝9時～ 公民館 ☎ (572) 5141  
\*一橋大学大学院生による講座

国立市内の一橋大学では、研究者を目指す大学院生が日夜研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を企画しました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。

〈図書室のつどい〉

### 暮らしのなかの怪しい科学

～科学的根拠のない健康・医療情報を問う～

お話し 左巻 健男 (法政大学教職課程センター教授)

「健康でいたい」「病気を治したい」「きれいになりたい」といった多くの人が持つ願望。そこにつけ入ってくるのが疑似科学といわれる科学的根拠のない情報です。これらは世の中にあふれかえっています。本書では、とくに健康や医療に関するものに焦点がしぼられ紹介されています。科学的根拠のない健康・医療情報に、人はなぜだまされてしまうのか……理科教育者である著者の左巻さんがお話しします。

〈左巻さんの著書〉

『暮らしのなかのニセ科学』(平凡社)、『病気になるサプリ』(幻冬舎)、『面白くて眠れなくなる理科』『面白くて眠れなくなる化学』(PHP研究所)ほか多数

とき 11月30日 (木) 夜7時～9時  
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名 (当日先着順)  
\*申し込みは不要です。ご自由においでください。

### くにたちブッククラブ 世界の軌む音を聞く 木内昇『櫛引道守』(集英社文庫)

講師 大木 志門 (山梨大学・日本近代文学)

とき 11月9日 (木) 夜7時半～9時半  
ところ 公民館 3階講座室  
申込先 公民館 ☎ (572) 5141

\*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

〈人権講座〉

### 落語で学ぶ『人権高座』

～ 笑いの中で考える人権 ～

講師 露の新治 (落語家)

日ごろ、意識せずとも無意識にしまっているかもしれない差別……しかし、あらためて「人権について考える」というと重苦しく、自分には関係ないことと思ってしまうことも多いのではないのでしょうか。

「差別される側とする側の間に橋をかけたい」と30年前から人権高座を続けてきた落語家 露の新治さんをお招きし、「落語」という親しみやすい切り口から直接的差別・間接的差別・部落差別などについてお話をいただきます。すべての人々に認められるべき人権について、他人ごとではなく自分ごととして考える機会にしたいと思えます。

とき 11月17日 (金) 昼1時～2時半  
ところ 公民館 1階市民交流ロビー  
定員 35名 (当日先着順)

\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈近現代史講座〉

### 朝鮮民族運動家の日本観

～植民地支配の歴史から考える～

講師 加藤 圭木 (一橋大学)

日本による朝鮮植民地支配の実態解明や朝鮮近現代史を明らかにすることは、私たちが向き合わなければならない課題であり、多くの人が朝鮮近現代史を学ぶことで、日本社会の歴史認識が深まっていくことが重要であると、講師は述べています。1910～20年代において、日本の植民地支配に屈することなく民族運動を展開し続けた人々を取り上げ、日本に対してどのような認識をもっていたのかを考えてみます。

とき 11月24日 (金)、12月7日 (木) 全2回 いずれも夜7時～9時  
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名 (申込先着順)  
申込先 11月7日 (火) 朝9時～ 公民館 ☎ (572) 5141

## シルバー学習室・心遊会紹介

シルバー学習室は、年間通してさまざまなことを学びながら、同じ市内に暮らす仲間との交流を深めていく講座です。今年、5月10日に開講し、毎週水曜日の午前中、料理・自然観察・水彩画・リトミック・くにたちの歴史等のテーマで講師をお招きし、現在23人のメンバーで楽しく学習しています。全講座修了後には同窓会「心遊会」に加入して、サークル活動が続ける人も多数いらっしゃいます。今年度シルバー学習室参加者と心遊会代表から、講座の様子や心遊会についてご紹介いただきました。毎年4月5日発行の「くにたち公民館だより」で募集しますので、ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

### 38期シルバー学習室での体験

荒木 三樹夫

昨年度参加した妻のすゝめで参加する事にした。これまで体験したいくつかの講座を紹介したいと思う。



真剣そのもの……!!

最初は料理講座。「健康を考えた手軽な料理」から始めた。料理をするのは好きだから楽しみにしていた。内容は、健康や栄養、それと病氣予防のための食事についてであった。私は栄養と消化は一致しない場合もあると思うし、美味しいと思つて食べるのが大切だと考えてもいる。何班かに分かれて協力しながら料理を作っていた。一人一人が分拍を考えて作業を行い、一緒に食べたのは楽しかった。

続いては自然観察の講座。自然観察は大好きな事なので楽しく参加できた。湧水とその流れに沿って散策しながら自然例えは、ミクリやカワナ等の植物や生き物を観察した。川岸の木の頭上で体を温めていた青大将というゲストが出演するサプライズもあった。郷土文化館での話も含め、改めて国立の自然の大切さを学び、守つていかなければいけないと感じた。秋の野外観察もとても楽しみにしている。

そして、「三原色(赤・青・黄)」と白で絵を描く講座。自分で色を作り、その色で描く。植物は成長する順に描いていき、鳥は口から近くから遠くを描いていく……新しい感覚で楽しめた。また、「リトミック」を体験する講座もあった。大きな声を出したり、体でリズムを取りながら踊ったり、楽器を使つて表現し体を動かした。恥ずかしさを押さえてやってみた！ 女性と手をつなぐめつたに無い機会等、ユニークな体験をした。私も普段から音楽をやっているので、新しい考え方に触れる良い機会であり、楽しい講座であった。

### 心遊会についてご紹介いたします

佐藤 頌子

心遊会は公民館主催講座である「シルバー学習室」で1年間学んだ後、さらに「学ぶ」ことを目的とした卒業生たちが自主的に作った同窓会です。「いつわ会」「四季の会」「茜読書会」「の会」「起身の会」「光遊会」「絵筆の会」「健笑の会」「ハーモニートボイス」という9つの活動が行われています。

そうした活動は昨年30周年を迎え、11月に「記念式典」、今年2月に「記念誌」発行、3月には「記念植樹」を行いました。「30周年記念誌」のブルの表紙には、岩知道浩子さんによる国立市の4つの景色が美しく描かれています。



思わず見入ってしまう表紙

そして表紙を開くと、「心、無窮に遊ばせて」とあります。これは中国の莊子の言葉で、この言葉こそ「心遊会」という会の語源なのです。記念誌には、心遊会創立30周年記念の講演会でお迎えした探検



開いてみると……



大学通りでの植樹

今、この30周年記念誌を前に、会員の総力が確かにここに刻まれたという、心から湧き立つ満足感を覚えています。シルバー学習室では長い老後を楽しむヒントに満ちた講座が数々用意されています。講座を共に学んだ人との交わりは、「心遊会」の交わりとなり、一生涯の財産と言つても過言ではないでしょう。

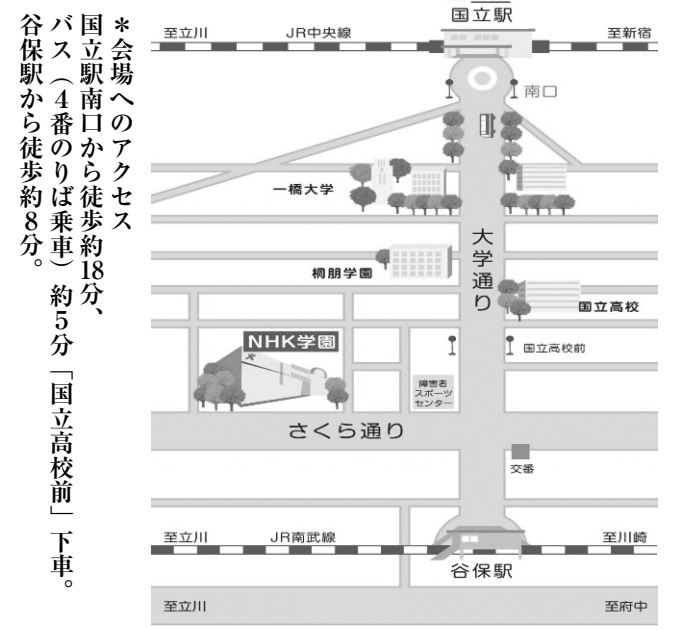


### 国立市公民館・NHK学園高等学校共催 子ども・若者を支える“つながりワークショップ”

子どもの育ち、若者の自立を支援する地域の活動や団体の取り組みについて学びあい、“つながり”をつくる連続ワークショップです。  
今回は今年4月からはじまった「子ども人権オンブズマン」の取り組みについて学びます。また、いま取り組んでいる社会資源マップづくりについて話し合います。

お 話 国立市オンブズマン事務局  
「子ども人権オンブズマンの役割について」

と き 11月28日(火)夜7時～9時  
と ころ NHK学園高等学校 2階音楽室  
申 込 先 公民館 ☎(572) 5141



### 〈多文化共生事業〉 塀のない社会に向けて ～ 異文化を理解するとはどういうことか ～

講 師 植木 安弘  
(上智大学、国際協力人材育成センター所長)

昨今日本では、訪日外国人や在留外国人の増加から、街中で外国人を見かけることが多くなってきています。また、2020年のオリンピックに向けてピクトグラムの変更や標識の多言語表示等も進められています。互いに文化を理解し合い、多様な文化的背景を持つ人々が共生するとはどういうことなのか、日本で国際的な視野を広げ、国際感覚を養うにはどういうことができるのか……実際に国連で様々な国の方々と一緒に仕事をしてきた植木さんにお話を伺い、多文化共生とはどういうことなのか考えてみませんか。

と き 12月9日(土) 昼2時～4時  
と ころ 公民館 3階講座室  
定 員 35名(申込先着順)  
申 込 先 11月10日(金) 朝9時～  
公民館 ☎(572) 5141

### 〈朗読講座〉 「ことばを楽しむ」発表会

今年7月から実施していた朗読講座の参加者が、その成果を発表します。作品のことばが表す情景や心情をイメージしながら読むと、どのようなのでしょうか……。ぜひお気軽にお越しください。  
発表作品：『きつねの窓』安房直子  
『母の写真』吉永みち子  
と き 12月1日(金) 昼2時～4時  
と ころ 公民館 地下ホール



### 〈図書室のつどい〉 「おもてなし」という残酷社会 過剰・感情労働とどう向き合うか

お 話 榎本 博明 (MP人間科学研究所代表)  
近年、過労死やうつ病など心の不調を訴える労働者が増え続けています。労働者が仕事現場で惨い事件を起こすことも見られるようになりました。普段、仕事でストレスを感じている人も多いのではないでしょうか。  
こうしたことが起こる背景には何があるのでしょうか。心理学博士である榎本さんから、その背景と過剰なストレス社会を生き抜くための対処方法についてお話いただき、今一度、日本人の働き方を見つめ直してみませんか。

〈榎本さんの著書〉  
表題作(平凡社)の他、『〈ほんとうの自分〉のつくり方』(講談社)、『ほめると子どもはダメになる』(新潮社)、『記憶力を高める科学』(SBクリエイティブ)等。

と き 12月8日(金) 夜7時～9時  
と ころ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)  
\*申し込みは不要です。ご自由においでください。

### 〈若者対象・青年講座〉 みんなでつくろうウチごはん

毎日のご飯……ひとりだと買って済ませてしまうという方、たまには自分で作ってみませんか？  
今回は「お弁当」を作ります。栄養バランスOK！ 安く！ 簡単に！ をモットーに、同世代の仲間とわいわい話しながら、楽しく料理をします。少しでも興味を持ったあなた、ぜひ一緒に作りましょう。公民館でお待ちしています！  
と き 12月3日(日) 夕4時～6時半  
と ころ 公民館 3階実習室  
持ち物 費用300円、エプロン(ない方にはお貸しします)  
対象・定員 高校生から30代までの方 10名(申込先着順)  
申 込 先 11月14日(火) 朝9時～  
公民館 ☎(572) 5141  
メール sec\_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

\*公民館では、青年室や「喫茶わいがや」など様々な活動にボランティアの青年が関わっています。「青年講座」は、そんな若者たちが企画した講座です。

## ひまわり

(8ページにもあります)



大学通りの紅葉  
榎戸 征治(くにたち写遊会)

### 大正琴の会 会員募集

大正琴に興味がおありの方、是非ご来館下さい。大正琴は毎回無料でお貸し致します。簡単な曲から始めますので楽しんでいただけます。会費3千円  
日時 第二・四火曜日 昼1時～  
場所 東福祉会館  
連絡先 重松 070(4003) 2475

### フルート会員募集「桜音の会」

半年に一回新曲に取り組んでいます。新しい譜面を手渡された時の戸惑い、少しずつ曲に仕上がっていく喜びは、吹いていて良かったと感じる瞬間です。  
日時 第二・四火曜日 夜6時～  
場所 富士見台地域防災センター  
連絡先 武田 090(1217) 7112

連絡先 武田 090(1217) 7112

### リコーダの会「木星」会員募集

誰でも吹けるリコーダで音楽を楽しみませんか。年2回の発表会に参加しリコーダのアンサンブルを楽しんでいます。初心者大歓迎先生が親切丁寧に指導します。  
日時 第二・四木曜日 夜7時～  
場所 公民館 音楽室  
連絡先 畑 070(573) 0678

### 新たに踏み出す一歩 埋木句会

「療」岡山祐子先生に指導戴き十周年を迎えました。奥深き俳句の魅力に歩む力を与えて下さいます。いっしょに踏み出しませんか。初心者再挑戦者伴に大歓迎です。  
日時 第一木曜日 昼1時～  
場所 郷土文化館 第一研修室  
連絡先 古田 03(335) 5785

### デジタル写楽 会員募集

デジカメを使つての撮影会です。会員は六十〜八十才の方々が活動しています。第一第三は撮影会第四は合評会、各自の写真をスライドで合評(公民館)  
日時 毎月第一第三第四金曜日  
場所 近郊の公園 風景、街並等  
連絡先 佐藤 070(576) 7709

### フラダンスを楽しむませんか

フラダンスの明るく軽快な曲ゆつたりと流れる音楽にあわせ楽しくのびのびと踊っています。ご一緒にハワイの気分を楽しみませんか？ 見学も大歓迎です。  
日時 毎週火曜日 昼1時～  
場所 矢川集会所  
連絡先 佐藤 080(1333) 7813

連絡先 佐藤 080(1333) 7813

### 「自衛術」体操会員募集

元氣は自分で作る  
31の動作をすることで心身のバランスを整え、自然治癒力を高めまします。年齢を問わず無理なくできる体操です。是非ご体験ください。  
日時 毎週金曜日 朝10時～11時半  
場所 下谷保地域防災センター  
連絡先 森本 070(676) 6836

### かもめクラブ 会員募集

運動不足の方、健康な体づくりに水泳を始めてみませんか。初心者〜上級者 泳力別にコーチの指導を受けて泳ぎます。男女問いません。体験可。  
日時 毎週金曜日 朝10時～12時  
場所 総合体育館 室内プール  
連絡先 平田 070(572) 4207

### 「国立水泳会」秋季大会員募集

スポーツの秋、仕事帰りに温水プールで快適な汗を流しませんか。初心者から競泳志向の方まで泳力別に公認コーチの指導を受けています。年齢・性別不問。体験可。  
日時 毎週火曜日 夜7時～9時  
場所 総合体育館 室内プール  
連絡先 松尾 090(8858) 6978

### 水泳クラブ「紫水会」会員募集

健康な身体づくりに水泳を始めませんか。免疫力アップには水泳が一番。公認コーチの指導のもと和気あいのクラブです。年齢性別不問。体験にどうぞ。  
日時 毎週火曜日 夜2時～4時  
場所 総合体育館 室内プール  
連絡先 大久保 070(526) 1082

連絡先 大久保 070(526) 1082

### 成人ソフトボールメンバー募集

試合や練習で体を動かすことが好きなメンバーが集まったチームの国立カングルーです。成人の方であれば年齢は問いません。一緒に汗を流して楽しみましょう。  
日時 毎週日曜日 昼1時～  
場所 第四小学校  
連絡先 高梨 070(3202) 0808

### 「書を楽しむ」

書と版画家デビッド・ブルさんとのコラボレーションや写経コーナー等、普通の書道展では見られないものを企画致しました。是非、ご高覧下さいませ。  
日時 11月11・16日 朝10時～17時  
場所 芸小ホール ギャラリー  
連絡先 松山 070(575) 8190

### 第218回くいしんぼクラブ

アレクサンドラさんにお得意の家庭料理を習いましょう。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参下さい。  
日時 11月12日(日) 昼1時～  
場所 福祉会館 料理講習室  
連絡先 八宮 070(571) 1007

### オータムコンサートへのお誘い

久保田先生の素敵なご指導を頂くピアノエヴェオーレ他の輝くメンパリの楽しい夕をお届け致します。無料。来年は是非一緒に舞台上立つ方達をお待ちしています。  
日時 11月19日(木) 夜7時～  
場所 国分寺市立いずみホール  
連絡先 川口 090(6518) 9971

連絡先 川口 090(6518) 9971

### 公民館運営審議会報告

10月10日(火) 第12回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名出席。傍聴者2名。  
前回議事録確認  
報告事項  
○公民館だより編集研究委員会 講座「子ども・若者を支えるつながりづくり」に60名以上が参加情報共有の場となった。10月号の市民文化祭、講座が魅力的。  
○社会教育委員の会 国立市重点施策のうち、社会教育の機会、施設の拡充について三鷹など他市の例を調べ報告。大学とネットワークを組む、子どもキャリア教育の例など多彩。  
○東京都公民館連絡協議会 9月2日昭島市で行われた研修会の全体をまとめたレポートが委員から配布された。公民館活動の重要性を歴史的事実に基づいて振り返る資料である。

### 協議事項

第30期公運審答申の「ふりかえる会」実施について世話人から提案が出された。市民に会への目的や期待したいことを明確に伝えるためにタイトル、案内文の検討を行い、タイムテーブルの確認をした。この案内は「公民館だより」12月号掲載予定。

### その他

文部科学省が「生涯学習政策局」と「社会教育課」を名称変更する方向で動いている。社会教育の現場から問題点を考えたい。  
次回定例会は11月14日(火) 夜7時15分から。傍聴歓迎。(三好)

次回定例会は11月14日(火) 夜7時15分から。傍聴歓迎。(三好)



### 今月の公民館 (11月、12月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 9日(木) 夜 くにたちブッククラブ 木内昇『櫛引道守』
- 17日(金) 昼\*人権講座 落語で学ぶ『人権高座』
- 24日(金) 夜~近現代史講座 朝鮮民族運動家の日本観
- 26日(日) 昼~院生講座 ジャック・デリダと「遺産相続の哲学」
- 28日(火) 夜 公民館・NHK学園高等学校共催 子ども・若者を支える「つながりワークショップ」
- 30日(木) 夜\*図書室のつどい 暮らしのなかの怪しい科学
- 12月1日(金) 昼\*朗読講座 「ことばを楽しむ」発表会
- 3日(日) 夕 青年講座 みんなでつくろう ウチごはん
- 8日(金) 夜\*図書室のつどい 「おもてなし」という残酷社会
- 9日(土) 昼 多文化共生事業 塀のない社会に向けて

# ひろば

(7ページにもあります)



#### 家事家計講習会

家事のこと、家計のこと、子育てのこと、いっしょに考えてみませんか。ワークショップ「ちよつと聞きにくいお金の話」

日時 11月25日(土)朝10時  
場所 コミュニティスペース旭通り  
連絡先 深見(57) 9956

#### 起立性調節障害ソレイユ

成長期に多い病気、起立性調節障害の家族や関係者対象。アロマタッチ講座と茶話会。申込制です。参加費アロマ代800円

http://odk-mitachi-sei-hog.jp/  
日時 11月29日(水)昼1時  
場所 公民館 和室  
連絡先 片岡(52) 7122

#### ガールスカウト東京都第145団

ガールスカウトと自然の中でゲームを楽しむ「なかよしラリー」を開催します。対象は来年年長と小学校低学年の少女です。11月25日までに小野までご連絡下さい。

日時 11月26日(日)朝9時半~12時  
場所 矢川上公園(雨天中止)  
連絡先 小野(09) 4488

#### 第1回 子育て教育懇談会

「日本の子供の育ちで心配な事親は子供にどう関わる?」私立中学ベテラン教員の星野実先生をお迎えしての子育て、教育懇談会です。無料、事前申込不要

日時 11月30日(木)昼2時半  
場所 公民館 講座室  
連絡先 高原(09) 3427 7770

1月号の「ひろば」原稿締め切りは、印刷の都合により12月1日(金)夕5時です。

#### 「ひろば」欄投稿規定

市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。原稿の締め切りは、掲載希望月の前月7日の午後5時です(7日が月曜日の場合は、翌日の8日まで)。原則として掲載月の7日から翌月6日までのお知らせを掲載します。公民館備付けの原稿用紙に団体名・サークル名を含めてお書きください。氏名にはふりがなをふってください。会員募集は6ヵ月に一回掲載することができますが、紙面の都合により翌月掲載となることがありますので、ご了承ください。

#### 〈サークル訪問3-14〉

### ピース・リーディング

くにたち2017

きたる11月25日(土)14時、公民館地下ホールを舞台として、半年に渡る稽古の成果が試される。朗読劇という手法を使い、平和へのメッセージを声に出して表現していくのが「ピース・リーディング」である。イラク戦争をきっかけに演劇人が始め、今に続く活動を、3年前、国立市公民館が主催講座として取り入れた。これに参加した市民が自主的にサークルを作り、昨年から継承してきた。

数ある台本の中から、今年「9人いる!」憲法9条と沖縄2017を選んだ。10人のメンバーが集まり、3月からワークショップや稽古を重ねてきた。取材に訪れた日は初めての立ち稽古の日。「ここなんですけどー」、通し稽古のはずが、つとつと中断しては話し合いが始まる。その様子は井戸端会議にも似て、一種微笑ましくもある。

台本から新たな事実気づいたり、そのことを皆で話し合ったりする中で、平和に対する自分の考えが深まっていくという。

この数年、テロや戦争のみならず大事故や自然災害で世界はますます混乱を深めているが、幸い国立市は、大きな災厄を免れている。「平和」の最大の敵は、外ではなく、一人ひとりの内の「思考停止」という態度にある。自分が本当に守るべきもの、そのために知るべきこと、すべきことは何か。25日の観劇を一つのきっかけとして、一人ひとりが自分事として考えて欲しい、熱の入った稽古からは、そういったメッセージが感じられた。もちろん、純粹に朗読劇として楽しむのもアリだ。

連絡先 龍野(09) 1094  
〈文・写真 隈井裕之〉



25日の本番に向けて (9人)9がんばっ